立教大學新聞

月刊毎月拾五日發行
編輯印刷兼發行人　矢澤賢一
發行所　東京池袋
立教大學新聞學會
電大塚四〇四
振替東京一〇〇〇
定價一部金五錢
一年分金六拾錢
廣告一行五十錢
場所指定二割増

農業恐慌の尖鋭化と農民運動の昂揚

黒田百助

「現在の農業恐慌は次の點で以前のあらゆる恐慌と根本的に違つてゐる。以前の農業恐慌は一般的上昇資本主義の内部に於る一つの一時的恐慌であり、だから資本主義機構の内部で解決を見出したものなのだが、現在の恐慌はそんなものではなく、資本主義のもつ一般的危機の一つのモメントなのだ。」

この文句通り、日本農業を襲ひつゝある農業恐慌も資本主義三期における日本資本主義の危機を構成する一のモメントとなりつゝあるのだ。日本農業への重大なる影響としての工業恐慌の風、これに加はるに、現時の國際恐慌を契機とする米恐慌の波、そして、あらゆる農作物恐慌の怒濤は日本農業恐慌を益々尖鋭化せしめ全日本農業の危機へ、そして日本資本主義の危機の重大なるモメントになりつゝあるのだ。

×

「恐慌は、どん底恐慌でも物價下落を伴ふものだ。恐慌の深さと物價下落の度合とは、もつとも密接に結びついてゐるものだ。」今、日本農業を襲ひつゝある農業恐慌が如何に農産物々價の暴落へと導いたかを調べてみよう!!

×

「農林省統計によれば農家救濟のうち大態において米五割五分、繭一割五分余、麥八分三厘、雜余は果菜類等花卉食用および工業用農産物である。以上農産物の總額は金額約算二千四百億圓に上り、しかも過半は市場に實だされる」のである。所で「豊作凶荒」による米價の暴落は物價で昭和四年度（米穀年度）の平均二十九圓十九錢に對し、昭和五年十一月の米恐慌の頂點においては同月平均十七圓十錢の安値を示し、四年度米の平均値に比し實に十二圓九錢安であつたのだ。次に繭價についてみると、昭和五年度春繭平均は三圓九十八錢であつて、前年に比し三圓五十九錢安であつたのだ。その他あらゆる農産物が年値以下の暴落の惨狀を呈したのである。

×

農業恐慌が成立するのは生産費（地代を含む）が收入を越える場合だけである。あらゆる農作物が日本農業においては生産費破れだ。米において、昭和五年度の米一石當り生産費は二十七、八圓（帝國農會調査）これに對して昭和五年十月三日の請新聞は一せいに期米十五圓台への激落を報じた。從つて石當り十二三圓の損失となつてゐるのである。又繭においても、蠶糸中央會調査による昭和五年度春繭一貫目平均生産費六圓九十九錢であるに對し、一貫目當り損失、二、三圓の相場を現出したのであつた。この外あらゆる農作物の如き生産費割れを現出したのである。

農産物において減收七億四千萬圓、農作物業において二億圓、そして天養收入減べを合算すれば農家收入（勝買力）減は十二億四五千萬圓に上るのである。

×

この生産費割れに對し、農民のベラ棒に高い小作料（恐慌の五割五分）公租公課（恐慌の五割）々の用費負擔の重壓を度外視してはならぬかゝる農村の政治的現實としての農業恐慌に對して、資本家地主の政府のとつた農村救濟策はどんなものであつたか？

いはく（一）前後二回にわたる三百萬石の買上げ、（二）政府米の海外ダンピング、（三）外米關稅の毎斤二圓より二圓引上げと、朝鮮米の月別移入制限、（五）米穀常備給賜特別會計の資金限度を現行二億七千萬圓より三億五千萬圓に擴張しようとする計畫（成立の見込）（六）米穀法を改正し米の輸出入に政府の許可を要することにする、（三月五日衆議院本會議可決）である。

以上の政策と帝國農會（地主の團體）の米買上運動と産安國民運動とを一體として其綜合性を考慮するならばこれ等の農村救濟政策運動が何等小作農民を救濟するものではなくして、地主救濟の政策であり運動であることを見破ることが出來るのである。

×

即ち今日の社會が階級社會である以上、あらゆる政策が地主本位の政策であることは明白だ。米價上等々と如何にも農民、小作を救濟するかの如く、觀念的には考へられるが、小作には、費る米はないのだ。米が出來たら、地主から高い小作料として取られる、肥料商人等々から取られ、無一物となるのだ（小農資産は、現金ほしさに、事實金がない、そこで安値を承知で米を賣り、高値を承知で市場から飯米を買つて食ふのだ）硫安問題もそうだ、如何にも、小作費農の利益を代表するかの如く見せるかは、あれは第二次米買上を有効に政府に通行させるためのオドシであつたのだ。又買上價とは何か？それは勞働者農民の血税なのだ。今日では金融資本が國家機力を握つてゐる、然し地主もそのブロックの一分子なのだ。

そこで米買あげ等々によつて金融資本は地主を味方とするのだ。又金融資本は米が安い方がいゝのだ何故か、それは、勞働條件を奴隷狀態に置き搾取率を大にし、國際資本戰において優位を占めることが出來るのだからだ。この意味で、米價安へのためと、來るべき帝國主義戰爭への準備としての朝鮮、台灣における米自給增殖政策を遂行されつゝあるのだ。あらゆる農民救濟政策は地主のものであり、賃農小作を救濟するかの如く見せかけたインマン的なものであることは明白なのだ。

×

「問題は見體的に資本家地主のブロックによる勞働者農民への攻勢、これに對する勞働者農民の逆襲の姿を見よ!!

勞農小作は飢死線上に生か、死か、生活にあへいでゐるのだ。だが、勞農小作は都市プロレタリアートとの堅き握手の下に死を賭して、勝利へ前進を歩みだしてゐるのだ。

×

小作料減免の闘爭から「土地を農民へ!!」のスローガンをかゝげて、農本主義農村における決死的闘爭たる反抗心が起つてくるのも素朴の抵抗は第二として自然である。

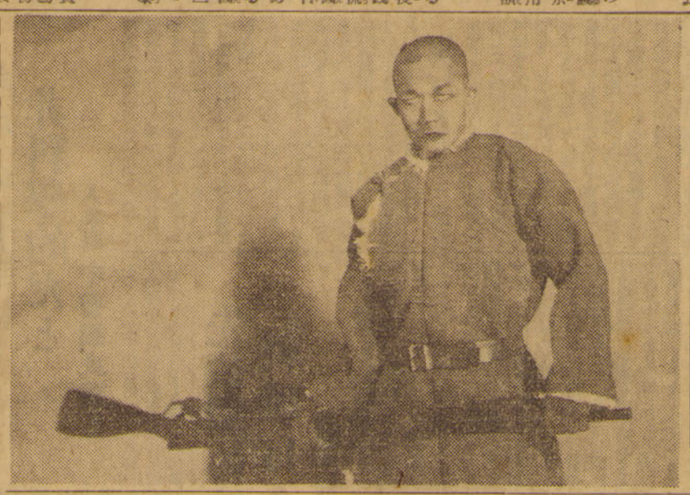
かゝる闘爭内にあつてせめてもの慰めは、心よき感覺的刺激である。これはブル級婦人プロ級婦人の共に享樂し得る自由な世界である。

そこに安息の聖地がある。感覺的アミュズメントの深ひの中にひたりてに溺れ込んでゆくのはひとりでに溺れてくる自己滿腔のと云ていへない境地である。然しながらよわい一般女性が複雜な今の生産機構、政治、家庭生活から男性のやうに振る舞ふことの出來ない狀況にあつて、せめてもの心のはけ口は感覺的安息より他にないかも知れない。十何年か前、黒髪を束ねて「天に瞬く一點の星」、地上にさく一輪の菫と自らセンチメンタリズムに落ち込んだ若い女性と今ではちがつた意味で、この頃星や菫を感覺としてみた感覺が、安かに變へて存續した。

ある河新聞で黨のために激して絲の黒髪を根元よりぷつつり切つて捧げる位は強く甘い劇的場面である。中には身も心も神の前に捧げ奉る如くに提供する女性もある。實に女性位精神的に勇敢なのはあるまい。

かこれを感覺的に考察するならば、それは青春期の女性の生理的變化がすこぶる重要なる感覺力と

チムール　アジアの嵐



近代女性と變態感覺

醫學博士　保坂孝雄

日本の女性が今までの因習的關係から家庭、育兒、家風等の形式的乃至經濟的方面の束縛によつて逃げても逃げられない狀態に置かれてゐることも確かであらう。こゝに於いて人間本來の性質たる反抗心が起つてくるのも素朴の抵抗は第二として自然である。

かゝる調和内にあつてせめてもの慰めは、心よき感覺的刺激である。これはブル級婦人プロ級婦人の共に享樂し得る自由な世界である。

そこに安息の聖地がある。感覺的アミュズメントの深ひの中にひたりてに溺れ込んでゆくのはひとりでに溺れてくる自己滿腔のと云ていへない境地である。然しながらよわい一般女性が複雜な今の生産機構、政治、家庭生活から男性のやうに振る舞ふことの出來ない狀況にあつて、せめてもの心のはけ口は感覺的安息より他にないかも知れない。十何年か前、黒髪や菫を束ねて「天に瞬く一點の星」、地上にさく一輪の菫と自らセンチメンタリズムに落ち込んだ若い女性と今ではちがつた意味で、この頃星や菫を感覺としてみた感覺が、安かに變へて存續した。

ある河新聞で黨のために激して絲の黒髪を根元よりぷつつり切つて捧げる位は強く甘い劇的場面である。中には身も心も神の前に捧げ奉る如くに提供する女性もある。實に女性位精神的に勇敢なのはあるまい。

かこれを感覺的に考察するならば、それは青春期の女性の生理的變化がすこぶる重要なる感覺力と

なつてゐることを認めなくてはならない。月經、好い意味の性慾等乃至精神的平衡が破れて生物的本能の乘ずるまゝに任せてしまう氣持には男性共身體内部の内分泌腺の青春期の變化を見逃すことは出來ない。元來感覺の原始的發達は男性よりも女性の方が遙に刺激に對して抵抗度がいゝ低い。

▽……△

感情の昂りを心の感覺の一表現とすれば、感覺は皮膚と粘膜の知覺の動きといつて好いだらう。然し感覺の内でも身體部位が一定の刺激に感じて變化し、これがため起る感覺（有感感覺）とある。現在知られたるそれは、觸覺（動）、聽覺（聞）、嗅覺（臭）、味覺（味）、食感覺（食）、皮膚感覺（皮）、運動覺（運）、平衡覺（平）、呼吸覺（呼）、性覺（性）、不快覺（不）、行動覺等の六種に分類できる。女性はこの内どれにでも抵抗が強い。感覺もまた一般刺激生理學の原則に從つてゐる。平素の練習によつて鋭敏にもなるし、又鈍感の刺激によつては終に感じ麻痺くもなる。

どの道、感覺を鋭敏にさせて纖細な刺激の特質を區別し見出さうとするには、練習もすることながら神經末端の反應、中樞の綜大な作用に基かなくてはならぬ。それを他所から求める時、觀想練行、無我の境地を歩むが如く精神を一點に集中させる。

だがそれは今の言葉でスピーチ、キーでなく。併現代神秘と大に食はれてしまへの人達にはすこぶる縁の遠い感覺領域である。日本の近代女性の感覺生活においても多分に願いアメリカニズムの影響をうけてゐるのではないかと思ふ。

すべて社會に住む人間は社會のあらゆる刺戟の中に立つて絶然自若として不氣味でゐられるやうな強靭な神經を持つてゐなければならない。そこに生活する女性の社交家庭、職場等の次第に變化してゆくのも無理がない。すべての刺戟もたびたび繰返して受ければ次第に感受性が鈍麻してくる。終には始めよりも強度の刺戟でなければ反應しなくなる。現代女性の感覺的生活においても、この生理學的理論が適應されぬはずはない。

スポーツ、ダンス、映畫等においても次第にその傾向を帶びてくるのではないかと思ふ。泥まみれのラグビー戰の觀客中に女性が近頃多くなつたことや、チャールストンを踊る良家の子女のことなど、かゝる運命をたどつて遂に刺激が輕薄的色彩を帶びてくるのも有り得る推移である。エロといふのもそれは近代社會の生んだ變應感覺に過ぎない。

（附記　保坂孝雄氏は大正四年度立教中學校の卒業である）

新學士が見る　第七天國の夢

西田雄作

晴々しい氣持なら少しもしないんだが、鬼も角、學士の稱號を許されて卒業といふ事になつてしまつた。數々の同僚も新らしい生活へ進むだけに騒々しい事限り無い。家へ池袋の故で一寸ブラリと出ると必ず二三の顔にブツかる。お茶でも飲まう……で無禮の相手になり合ふが話は何の變りばえもしない。いはく就職。いはく就職。

×　×

……悲らしく多くの同僚はいふ。野球でもやつて暇やかさを見せて呉けば良かつた、同じ試驗試驗に行つても英語課されて特別落第ちやないか……おれには一つで後双に出三つも推薦してるんだぜ……そんな事で人事課を悲鳴する者も居る。

×　×

甲斐なさをかこつ不幸者も居る。何としても就職くつてウルサくて仕樣がない。

×　×

自分はどこか投げてる所でもあるためか、職業的な就職熱を余り持ち合せて居ない。一生懸つての牧場が部長とか課長位が精々の事だと考へると、イヤになつて失ふ。使つてやるから來い！　といふならば行つてやる。こんな風だから人は呑氣千萬な馬鹿野郎だといつて居る。こんな連盟の人間がグループの中に割り込むと中々に人の感情を左右させる。終ひには異端者として罵られて失ふ。

×　×

學術の學説を極める法學士府を終えたんだが感じた事は何んにも無い。酒を飲む煙草を吸つて與たつた訳だろ。學術を進歩した結果は、如何にカンニング術が発達となつてゐる。まるでカンニングが學士の稱號を授けて與れた同樣だ。だから、何んにも知つて居ない。何も出來やしない。そして動めも心がない。他に目當てもあるんかと聞かれるとハクキリ否といふ。夜更しての勉強の限りを盡して始終第七天國の夢にでも居る樣な良い氣持で居る。こんな樣子だから人はホト情けなくなる。

×　×

もちろん眞へられた手腕か十年惡つてやつと百職のサラリーマンと心得るなら間違はなくなる。一圖に登りつめた好奇心、見榮、マネキンボーイを取て自任自負してなら滑稽だ。銀行退しい。保險屋退しい。砂糖屋退しい。無科でも使つて呉れ、は有難い。結果から見てこそ、なる樣になる、とまいへるが事前に少々でも見通して考つ、利用されるとり身のために「自己見通」、この事が一番大事で等閑視出來ない。成功なんていつて居ると、「偶然」偶會が必然的にいふ成功不成功を決定づけるならあたら有爲の一生を「二三の取扱」を受けて人々に任せる事はない」と一時放棄なんだらうが共鳴して與れる奴も居る。だから圖に乗つて、落ち行く此奴者となるのも知らないで大勢の成功を鏡に振り回す。

×　×

馬鹿につける藥はないものでせうか。

新刊紹介

ソヴエート同盟の社會主義建設

平安の大道を歩むものか

大島兵輔

余り新刊でもないが「ソヴエート同盟の建設」讀後感

◇

今より大學を卒業する者の如何に多いことか。然るその中の殆んど、幸にして、あるひは不幸にして就職し得るのだらうか。現在の社會狀況になつて浮動する學生層――一般的にいへば中間層――の進むべき路くらい、奇しくも又疑れるものはないといつて過言ではあるまい。一體、ソヴエート同盟では、他邦みたいに失業群に投入されることの余りにも明瞭すぎる疑れなる解が一應存在するのかどうか、といつた樣な疑問を起す者が、必ずや多數存在するに違ひないことであらうが、已れが何をなすべきかを自覺しおる者にとつても、ソヴエート同盟が、あらゆる帝國主義列強が現在いづれも恐慌の眞ただ中にあるうちに如何にしてその社會主義建設事業を進めるかを、知ることは絶對に必要である。

◇

かゝる疑問、これ等の疑問に明快な解答を與へ、又現實的な參考と、暗示と、力强さとを與へる、プロレタリア科學研究所編「ソヴエート同盟の建設」（プロレタリア叢座第五卷）の現れたことは、何ごとも増してうれしいことである。

余りにもわかりきつた話でもあるが、世界恐慌の眞ただ中にあつて、資本主義諸國の、その生産過剰、失業者の激增、勞働爭議の激化等々、ひいては不可避の危機にある第二次帝國主義戰爭迫傾の中にその内的外的矛盾行き詰りを敏感的に暴露しつゝある今日、その社會主義建設事業が如何に着々と經實な歩みを續けつゝあるかを、失業者は清算され、勞働者諸勞大衆は、その生活水準を如何に高揚しつゝあることか。これ等の事はたれでもが知ることを、渇望し期望してゐる所のものである。

◇

本書は、經濟建設、文化建設に二大別して前者は河野勝弘氏、後者は秋田雨雀氏によつて執筆され、前者は所ソヴエート科學研究會の編纂者であるが、偉大なる社會主義建設過程を實に具體的に、正確に然も分り易く書かれてある。殊に特筆すべきことは、從來のかゝる著書、あるひは論文が、その建設過程の紹介に「その結果のみをやゝもすれば抽象的にのみを傳へて居つて社會主義建設の實際的な過程を具體的に傳へるといふ點において欠けてゐた。またその結果にしてもその肯定的な方面、即ち新旅觀の方面のみを傳へて居つてその否定的方面、即ちその欠陥、困難等はやゝもすれば閑却され勝ちであつた。だからソヴエート同盟の社會主義建設はあたかも平安の大道をやく樣に容易に行はれてゐる樣な感じを抱かせる傾ひがあつたのである。（まへがき）がこの欠陥を補つて、爽してその建設事業は進々とした道を歩むが如く行はれてゐるのではなく、全勞働者勞大衆の熱意と努力によつて成されつゝあること、然も建設途上の困難を如何にして克服しつゝあるかを、正直に、具體的に書かれてゐることである。

◇　◇

始めの經濟建設は七章に分つて十月革命と勞働者農民同盟の成立から説き起して（第一章）五ケ年計畫の徴にいり細に亘つた說明（第二章）その計畫實現のための闘爭（第三章）經過と見透し（第四章）農業集團化運動の發展（第五章）右實目利見主義者との鬪爭（第六章）、最後に五ケ年計畫の世界經濟における意義及びその國際階級戰線における意義にまで説き及んでゐる。この文化建設は講座式には體系づけられてはゐないが、如何にして文化建設かされつゝあるか、特に教育問題ピオニールについて詳述されてゐる。以上極めて簡單に内容紹介を試みたが右たると左たるとを問はず必ず一讀すべき好著である。

【共生閣版價五十錢】

時間空間

×

「感覺麻痺」なんか陳腐な次第、現在の經濟制度では當然の結果と知れ

×

何故就職出來ないのか！　過去十數年の勉學も何も就職してくれない。今の教育制度が殺しの學校の實利化が强調される新病ボンヤ〳〵激第させるとは該せない學校實施

×

廣告

新築地三月公演
高田保改作
「アジアの嵐」
演出　土方與志
美術　島公靖
於築地小劇場
三月十日……二十四日

大學の寵兒！

英語研究

◀大學・高等學校程度の新らしき英語及英文學研究▶

四月號第一號目次

沙翁劇の素材二種……石黒魯平
愛蘭の文藝運動……ピカリング
リチヤアヅの文學論……原一郎
英國文藝界月次通信……ブランデン
寢がへり（ウエルズ作）……大橋榮三
▼蘭國小麥のダンビ……▼笑話の研究
▼白系露人の運命……▼海外新聞雜誌要覽
▼殘虐の家（「聖書物語」）……▼レイベ・トランスレイダズ
▼傳記とストレエチイ……▼世界文壇俯瞰
バラッド漫筆……堀正孟
退場讃歌（キプリング作）左右田實
ディ・ラ・メアの「デサ・アイ・ンド」彼のロマンス相良次郎
オオルダス・ハックスレ小論……佐山榮太郎
日本シェイクスピア書誌（二）……市河三喜
書物と現代作家（「女子」）……レイコック
ドイツ語講座……石川錬次
フランス語講座……河盛好藏
古代英語講座……鈴木重威
言語學的散歩……行々子
オット・カアン氏の業界不況觀……大原英二
各大學選拔試驗問題の研究……今泉浦治郎
和文英譯の練習……南石福二郎
▼年少讀者諸君に……▼ウヴヂスのケンヂ小說
▼警句から見た世の中……▼英米小說の現在と未來
▼ロバアト・フロスト……▼模範的教師
▼アン・イムブロムラ……▼ユウア・ラングヂチ
和文英譯「甲」欄の講評・新課題　高橋一知
同「乙」欄の講評・新課題　神崎保太郎

◇定價金五拾錢　送料金一錢五厘
●年分前金二圓八十錢・年分前金五圓五十錢　送料共●

研究社英文學新刊書

九州帝大教授　豊田實著・菊判　定價三圓（送料十二錢）

チヨーチ・エリオットの心意發展の研究

本書は豊田博士が女史の心意發展の經路を研究して英文學史上の位置を確立せんと期せる英論文である。女史に影響を及ぼせる悉くの哲學者の思想迄も究めて遺憾が無い。切に清讀を薦む。

東大英文學研究室　佐々木達著・菊判　定價一圓廿錢（送料六錢）

ロバート・ブリヂエズの詩の言語研究

本書は最近頓に擡頭し來つた近代英詩用語の科學的研究に對し日本が生んだ最初の英語論文である。即ち故桂冠詩人ブリヂエズの詩の語彙・語法を檢討して該博且つ精緻を極めたる名著！

東京市麹町區富士見町
振替東京二八六〇一　研究社

大衆公論社

東京市芝區櫻田鍛冶町十番地
三友ビル内
振替東京一七五七番

近刊豫告！

レーニン主義教程　送料一八錢　定價閑
――黨の農村青年・初等學校用教科書・並びに自習書――

ソヴエート權力直屬下の藝術一般の偽りなき報告、論説に、演劇に、音樂に、映畫に、建築に、その世界最尖端を歩るく赤きプロレタリアートの鐵の如き眞委と、文化的建設の足跡に接せよ！　意と殺實！

共産主義藝術概論

――文學・繪畫・演劇・音樂・映畫・建築一般――

黒田乙彦　古賀一雄　譯
定價一圓五十錢　送料八錢

共産主義

定價一圓　送料一八錢

共産主義の戀愛・結婚・家族論

――その理論とその具體的展望――

向坂逸郎　島海篤助　譯
定價一圓五十錢　送料八錢

曲解されたる「コロンタイズム」に於ける赤き戀の變形的具象その過誤と眞正を强調せんがために譯されたる本書リ、ヤザノフ、レーニン、クララ・ツエトキン、ゼシカ・スミス、P・メルケル等の内容を收む、附錄に日本に於ける波民運動人の狀態とその解放運動あり

インテリゲンチア

――その特質とその將來――

淡徳三郎　譯
定價一圓五十錢　送料八錢

猪俣津南雄著　沒落資本主義の「第三期」

――日本資本主義は沒落しないか――

定價一圓六十錢　送料八錢

北郷逸譯　反ファシズム闘爭

定價一圓　送料八錢

青木惠一著　日本農民組合運動史

定價一圓五十錢　送料八錢

金融恐慌下に於ける洪水の如き農村の崩壞、今や飢餓線を前にして決死的農民の反抗は燎原の火の如き勢を以て擴大しつゝある働くものに食を！　農民に土地を！　今やこのスローガンの下に一大農民運動は展開されんとしてゐる。全國農民組合結成十週年記念出版である。發禁の恐れあり速時買へ

聖公會神學院教授　神學博士　稲垣陽一郎著

さくらめんと

最新刊四六版箱入布製美製定價金貳圓

二千年來教會が證奉し來れる聖奠――サクラメント！それは有形無形の兩分子の宗教的接觸よりなる結晶である。神が人類にあたへる恩惠中斯くも感覺であり且合理的なる表現が又とあらろうか？

その尊きサクラメントなる洗禮、信徒按手、聖餐、結婚、懺悔、聖職按手、病者抹油の七ツが今、公會第一の教理學泰斗稲垣博士に依りて徹底的に研究され大衆の前に展開された。實に章を重ぬること、二十、節を分つや百、更に細項分類すること無數微に入り細を穿つた教理解剖の一大鳥瞰圖の觀がある。

カトリツクよ、プロテスタントよ、暫論爭することを罷めよ。互に見解を異にする教派よ、急ぎ來れ。然して學界權威が披瀝せる輝く研鑽の前に肅然として使徒相傳の祕義を見ることは蓋し刻下急務であらう。

高瀬恒德著　四六判美装　定價金一圓四十錢
宗教詩集　前川教授著　黎明の默禱　四六判美装　定價金七十錢
絶大なる人格　四六判美装　定價金七十錢
パアソン著、前川教授譯　四六判美装　定價金六十五錢
基督教の眞髓を語る
須貝教授著　四六判上製　定價金一圓二十錢
新約とその背景
須貝教授著　菊半截美装　定價金六十錢
魂の巡禮
シエルドン著、法用繁造譯　四六判美装　定價金六十錢
イエスの歩み（豊通版）
貫民之助著　菊判截美装　定價金三十錢
基督教入門
稲垣博士著　菊判截美装　定價金六十錢
天路を指して
稲垣博士著　菊判截布製　定價金九十錢
心の晴雨
カノン・ペル著稲垣文子譯　四六判布製美装　定價金一圓二十錢
いこひの水濱
稲垣博士著　菊判截美装　定價金七十錢
救主を仰ぎて
稲垣博士著　菊判截美装　定價金五十錢
葡萄園の小狐
ノートン著、森勇一譯　菊判截美装　定價金六十五錢
聖靈の御姿
若月麻須美著　菊半截上製　定價金貳圓
基督教會史
オットレー著、岩井順一譯　菊判上製　定價金一圓五十錢
イスラエル宗教史
オットレー著、岩井順一譯　菊判上製　定價金一圓七十錢
ヘブル民族
今井博士著　菊判上製　定價金一圓七十五錢
舊約聖書神學
ワイズマン著　山本秀治譯

カタコム物語

最新刊　四六判美装定價金六十五錢

南歐のローマンス！　暴帝の苛政を地下洞窟にさけた諸聖徒や、猛獸爪牙の下にあつて尚主の御名を讃美しつゝ花の樣に散つた殉教者たちの、世にも美しき物語りのかずかず。

東京麻布材木町三四
振替東京四一二四〇
市外池袋一〇四九

聖公會出版社
聖山莊

中風狀態の經濟界
新學士の包容は不能
就職戰早くも峠を越し 去就に迷ふ卒業生

漸くにして春風たいとう春進捗して難き昨今となつたが依然業況変化しつゝある不景氣を思ふ時たれか憂慮を抱へぬ者があらう一九三〇年に於る我國の經濟界は殆ど世界經濟恐慌の深大なる影響と産業部門の上に被り特内的に金融業、公私經濟の部門産業及産業生産品の過剰等の原因及物價の暴落等々によつて富の減少に伴ふ購買力の不振及物價の暴落等々によつて未曾有の經濟界不況を來したが今後果して景氣はいずれの方向を目指しつつ動いてゆくのであらうか

現内閣の發表に據れば三十八萬人であるが實際には恐らく二百五十萬を算するであらうといはれて居る驚くべき

失業者 を包含する我國の不景氣は殆ど底を割つて居る又かくして依然的に結果招來された我々の大部分が屬する中產階級層の貧困化を如實に味ひつつある悲慘なる情勢の下に今春大學を巣立つ卒業生の就職難はギリ〳〵の所まで到達して居る學士の滿腹さへ得れば何とか就職の出來たのは遠い昔のはかない夢となり寧ろその職業が知識になる今の世の中である「高等教育を受けて」と嘆の如くにいへない悔られて身の不遇をかこつ新學士、芋蔓式に泣き落し手をかへ品をかへ就職戰線に奮戰し慷慨しまのびころびつつ奮闘し續けて居るであらう

新學士 淺學の味は苦汁は余りにもにがく苦い、さて今春ゴジイク式赤レンガの住みなれた母校と別れる暇もなく不景氣の怒濤さかまく社會へ就職を目指して乘出した本學百四〇名の卒業生のうち現在までに早くも目的を果した幸運兒を大事に掲げ多少良好と見られる商保險會社等の社員採用試驗はまだ終了を告げぬためその終了によつて近日中まだ比率の増大を見る事が出來やうが然しそれにしても中風狀態の日本經濟界は全卒業生を收容出來ないのはわかりきつた事だから大分部の新學士は悲慘にも産業

豫備軍 に編入されて行くものかと思はれる、いづれにしても憂うつな話だ

學に比較すれば風生の少いだけに

人事課 本年度卒業生百二〇名中人事課に於ては文學部二〇名中依頼者六名中の四名まで同樣就職決定し都合二十四名がすでに幸運に恵まれて居るその他

人事課 本年度卒業生百二〇名中依頼者六名中の四名まで同樣就職決定し都合二十四名がすでに幸運に恵まれて居るその他

人事課 本年度卒業生百二〇名中依頼者六名中の四名まで同樣就職決定し都合二十四名がすでに幸運に恵